

2025年度 日鋼記念看護学校自己点検・自己評価

(A: と思う B: ややと思う C: あまりそう思わない D: そう思わない E: わからない)

A:5点 B:4点 C:3点 D:2点 E:1点

I 教育理念・教育目的

	下位項目		点検 (評価内容)	評価	自己評価
1	法的整合性と独自性	I-1	教育理念・教育目的は本学校の教育上の特徴を示しており、かつ法との整合性がある	4.4	評価点が昨年度の3.9から4.1に上がった。教育理念を理解し学校運営を進めることができていると評価できる。前年度から課題としているI-2「教育理念・教育目的は学生にとって学習の指針となるように具体的に明示され、実際に指針となっている」は得点が3.8から3.7へさらに下がっている。教育理念 (idea of education) の周知は重要であるが、教育理念とはある時代の組織における教育のあり方を根本から規定する理想主義的な教育目的の体系であるため、抽象度が高くなる。今後、評価内容についても見直しが必要である。また、教員との評価内容の意味の共有を図る必要がある。
2	教育理念・目的の意識と周知	I-2	教育理念・教育目的は学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっている	3.7	
3	看護専門職についての考え方	I-3	教育理念・教育目的は看護専門職についての考え方を明示している	4.1	
4	看護教育についての考え方	I-4	養成する看護師の質を保証するために、どのような教育内容・教育方法・教育環境を整えようとしているかが述べられている	4.0	
5	学習・教育観と学生観	I-5	看護・看護教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され実際の指針となっている	4.1	
6	教育理念・目的の評価	I-6	養成する看護師が卒業時点において、どのような資質を有するか明示し、その資質は社会に対する看護の質を保障するのに妥当である	4.2	
				4.1	

II 教育目標

	下位項目		点検 (評価内容)	評価	自己評価
1	教育理念・目的との一貫性	II-1	教育理念・教育目的と教育目標が一貫している	4.4	評価点が3.9と昨年度4.1より得点が下がった。II-1「教育理念・教育目的と教育目標が一貫している」は昨年度の4.2から4.4と得点上がり、教育理念・目的、教育目標について一貫していると評価。得点が昨年度より下がったII-2「教育目標は設定した教育内容を網羅し、かつ、卒業時の学生の到達度が示されている」II-3「教育目標は設定意図が明確であり、教育活動の指針となっている」II-4「教育目標は実現可能であり、社会の人々や学生が理解できるものである」II-5「看護実践者としての能力を育成する側面と学習者としての成長を促す側面から教育目標を設定している」について、学生の状況も年々変化しており、教育理念・教育目的に基づき軸となる考え方は変えずに状況に応じた見直しをしていく必要がある。また、教員とも意見交換し洗練させていく必要がある。さらに、II-6「卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として教育目標を設定している」について、看護専門職者として自律した職業人となりうるよう示しているが、教員・学生双方がより理解しやすい教育目標をめざし検討する。
2	目標内容の側面と到達レベル	II-2	教育目標は設定した教育内容を網羅し、かつ、卒業時の学生の到達度が示されている	4.0	
3	設定意図とその明確性・実現可能性	II-3	教育目標は設定意図が明確であり、教育活動の指針となっている	3.9	
		II-4	教育目標は実現可能であり、社会の人々や学生が理解できるものである	3.8	
4	教育目標の評価	II-5	看護実践者としての能力を育成する側面と学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	3.7	
5	継続教育との関連	II-6	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として教育目標を設定している	3.9	
				3.9	

Ⅲ教育課程経営

下位項目		点検（評価内容）	評価	自己評価
1	教育課程経営者の活動	Ⅲ-1 教職員は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している	3.9	評点平均が3.7と昨年度3.6よりわずかに上がった。しかし、項目の中で平均得点が下がったのがⅢ-9「構成した科目は本学校の特徴をあらわしている」昨年度の4.2から4.1、Ⅲ-10「単位履修の方法とその制約について教員・学生の双方がわかるように明示している」が昨年度の4.0から3.8となった。また、下位項目の教育課程評価の体系について、単位認定の考え方や評価の体系などの項目である、Ⅲ-13「単位認定の基準は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である」昨年度の3.9から3.3に下がり、Ⅲ-14「単位認定の方法は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である」昨年度の3.4から3.1へ下がり、Ⅲ-16「教育課程を評価する体制を整えている」昨年度の3.8から3.7へ下がり、Ⅲ-17「評価結果の活用における倫理規定を明確にしている」昨年度の3.9から3.4へ下がった。このことは昨年度から課題でもあり、単位認定や単位互換について学則に規定しているが公表はしておらず、社会のニーズもあり今後HPや学校案内などでも紹介していくよう検討が必要である。一方、課題となっているⅢ-19「教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている」昨年度2.6から2.9やⅢ-20「教員が自ら成長できるよう、自己研鑽システムを整えている」昨年度2.9が3.2と得点が上がリ、Ⅲ-21「教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている」昨年度2.8が2.9と得点上がり、教員の教育・研究活動において、教員の専門性を高める体制の整備や教員の自己研鑽・相互研鑽を保障することが少しずつ改善されつつあると推察する。このことは病院看護部の協力の基、病院からの異動により教員が増員したため業務量も減り、授業準備の確保や教員研修などの参加も出来、精神的負担の軽減にもつながった。今後もより良い改善に向け教員のラダーの整理と共に看護部とも連携し調整していく。
		Ⅲ-2 教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	3.8	
2	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	Ⅲ-3 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	4.2	
		Ⅲ-4 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	3.8	
		Ⅲ-5 学生の成長について、明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	3.9	
3	科目・単元構成	Ⅲ-6 明確な考え方と根拠をもって科目と単元を構成している	4.2	
		Ⅲ-7 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある	4.2	
		Ⅲ-8 構成した科目は看護師を養成するのに妥当である	4.3	
		Ⅲ-9 構成した科目は本学校の特徴をあらわしている	4.1	
		Ⅲ-10 単位履修の方法とその制約について教員・学生の双方がわかるように明示している	3.8	
4	教育計画 1) 単位履修の考え方 2) 科目の配列	Ⅲ-11 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている	3.6	
		Ⅲ-12 単位履修生の考え方を踏まえつつ、看護師になるための学修の質を維持できるように科目の配列をしている	3.9	
5	教育課程評価の体系 1) 単位認定の考え方 2) 評価の体系	Ⅲ-13 単位認定の基準は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である	3.3	
		Ⅲ-14 単位認定の方法は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である	3.1	
		Ⅲ-15 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.9	
		Ⅲ-16 教育課程を評価する体制を整えている	3.7	
		Ⅲ-17 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている	3.4	
6	教員の教育・研究活動の充実 1) 教員の専門性を高める体制 2) 教員の自己研鑽を保障するシステム 3) 教員の相互研鑽を保障す	Ⅲ-18 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	3.3	
		Ⅲ-19 教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている	2.9	
		Ⅲ-20 教員が自ら成長できるよう、自己研鑽システムを整えている	3.2	
		Ⅲ-21 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.9	
7	学生の看護実践体験の保障 1) 実習施設の選択と開拓 2) 実習目標達成のための実習施設との協力体制 3) 臨地実習指導者と教員の協働 4) 学生からケアを受ける対象者の権利の尊重	Ⅲ-22 臨地実習施設は、本学校の個別の教育理念・教育目的・教育目標を理解している	3.8	
		Ⅲ-23 臨地実習施設は、学生の看護実践の実習を支援する体制を整えている	3.7	
		Ⅲ-24 臨地実習における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員それぞれの役割を明確にしている	3.9	
		Ⅲ-25 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている	3.6	
		Ⅲ-26 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している	4.1	
		Ⅲ-27 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて学生への指導を計画的に行っている	3.9	
		Ⅲ-28 臨地実習において学生が関係する事故を把握・分析している	4.2	
		Ⅲ-29 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている	4.0	
			3.7	

IV教授・学習(講義・演習・実習)・

IV 教授・学習・評価・実習・実習			自己評価
下位項目		(評 価 内 容)	評定
1	授業内容と教育課程の一貫性	IV-1 授業内容は、教育課程との一貫性があり、当該学生の特徴に合わせた内容となっている	4.0
		IV-2 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べている	4.0
2	看護学としての妥当性	IV-3 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある	4.2
3	授業内容間の関連と発展	IV-4 学生の理解を効果的に促すために、授業内容の重複や整合性・発展性等が明確になっている	3.2
4	授業の展開過程 1) 授業形態の選択 2) 指導技術の工夫 3) 指導技術の工夫 4) 教材・教具の活用と開発	IV-5 授業内容に応じた授業形態(講義・演習・実験・実習)は選択している	4.0
		IV-6 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画に明示し、実践している	4.1
		IV-7 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	3.7
		IV-8 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、実習指導者や教員間の協力体制を明確にしている	3.4
5	目標達成の評価とフィードバック 1) 評価の計画性 2) 評価結果の活用	IV-9 評価計画を立案し、実践している	3.4
		IV-10 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	3.7
		IV-11 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	3.3
		IV-12 学生による授業評価の機会を保障している	3.7
		IV-13 教育目標の達成状況を多面的に把握している	4.0
		IV-14 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している	4.1
		IV-15 単位認定の実施において公平性が保たれている	3.4
6	学習への動機づけと支援 1) シラバスの提示 2) 学習への支援体制	IV-16 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある	4.0
		IV-17 シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機付けと支援になっている	3.9
			3.8

V 経営・管理過程

下位項目		(評価内容)		評定	自己評価
1	設置者の意思・指針	V-1	本学校の設置、教育理念、教育目的、教育課程経営、教育評価、および管理運営に関する管理者の考え方が明示されている	4.0	評価平均3.9と昨年度の3.7よりやや得点ポイントが上がった。項目V-1「本学校の設置、教育理念、教育目的、教育課程経営、教育評価、および管理運営に関する管理者の考え方が明示されている」が昨年度の4.3から4.0、V-13「学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっている」が昨年度の4.3から4.2、V-15「広報活動は、看護師を養成する機関として、社会に十分アピールし、説明責任を果たす内容と方法になっている」が昨年度3.9から3.8、V-15「本学校の運営においては、設置者の将来構想のもとに運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価を行っている」が昨年度3.9から3.8にそれぞれ得点が下がり、これらのことは2025年11月法人設置者が変更となり、その方針などを周知している最中であることも影響していると推察する。そのため、新たな設置者の考えや方針を周知徹底していく。一方、施設・設備の整備では、V-9「施設・設備は医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて計画的に整備改善を進めている」、V-10「学生および教職員にとっての福利厚生施設の設備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備している」が昨年度より得点が上がった。夏の猛暑への対策として看護実習室のみエアコン設置がされていたが、令和7年度窓用エアコンが情報処理室、休養室に設置され、また扇風機の増数や冷却用の冷蔵庫や物品がそろい、対策に向けた整備がされ学習環境が少しずつ整い始めていることによると推察する。今後も熱中症対策と共に冬の寒さ対策などの対応を工夫しより良い学習環境を整えていけるよう検討していく。また、災害などの危機管理面については、AEDや2階廊下の担架の設置と共に教員も救急対応の訓練を実施した。また学生は、避難訓練の継続と共に、AED使用方法や取り扱いなどの説明と実施訓練を行い、さらに災害訓練の患者役参加により学生の防災意識が高まるよう進めることができたことが反映されたと推察する。今後も継続し計画的に整備していく。
		V-2	教職員は、設置者と管理者の意思・指針を理解している	3.7	
2	組織体制 1)意思決定機関・意思決定システムの明確性 2)組織の構成と教職員の任用の考え方 3)教職員の資質向上についての考え方と対策	V-3	本学校の組織体制は、教育理念・教育目標を達成するために意思決定システムや権限、役割機能が明確である	3.8	
		V-4	組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるような体制を整えている	4.0	
		V-5	教職員の倫理規定が明確になっている	3.9	
		V-6	教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念、教育目的を達成するために整合性を持っている	3.6	
3	財政基盤	V-7	教職員は、本学校がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	4.3	
		V-8	それぞれの観点から教職員の意見を経営・管理過程に反映できるようになっている	3.9	
4	施設・設備の整備 1)整備の考え方と計画性 2)看護学の発展や医療・看護へのニーズ、学生層の変化に対応する整備 3)学生および教職員のための福利厚生の整備	V-9	施設・設備は医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて計画的に整備改善を進めている	3.3	
		V-10	学生および教職員にとっての福利厚生の施設整備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備している	3.4	
5	学生生活の支援 1)学修継続への支援体制 2)学習困難への支援体制 3)社会活動への支援体制 4)卒業後の進路選択への支援体制	V-11	危機管理マニュアルを策定し、それに基づき防犯・防災(避難)訓練を行うなど、安全確保の体制を整えている	4.3	
		V-12	健康管理委員会を設置し、学生の健康管理を支援するための年間計画を立案、実施・評価を行っている	4.1	
		V-13	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっている	3.8	
6	学校の情報提供 1)教育活動に関する関係者への情報提供 2)広報活動	V-14	教育・学習活動に関する関係者(保護者等)への情報提供を行うことによって、その協力支援を得ている	4.0	
		V-15	広報活動は、看護師を養成する機関として、社会に十分アピールし、説明責任を果たす内容と方法になっている	4.2	
7	学校の運営計画と将来構想 1)年間の運営計画と評価 2)短期計画・中・長期計画	V-16	本学校の運営においては、設置者の将来構想のもとに運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価を行っている	3.9	
8	自己点検・自己評価体制 1)自己点検・自己評価の組織 2)資料・データの収集・蓄積 3)資料・データの分析・解釈	V-17	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・評価を行うための知識と方法を持っている	4.0	
		V-18	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	4.1	
		V-19	評価の機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっている	3.7	
				3.9	

VI 入学

	下位項目	(評 価 内 容)	評定	自己評価
1	入学者の選抜の考え方と教育理念・教育目的との一貫性	VI-1 教育理念・教育目的の一貫性から入学者選抜についての考え方を述べている	4.1	評価得点が昨年度4.1から4.2と上がった。少子化・大学進学者の増加・都会志向、コロナ禍での看護職の過酷な労働イメージにより職業選択を躊躇するなどの状況に受験者確保に増々苦慮している。昨年度の状況や周囲の学校の取り組みなどをふまえ入試方法を見直しているが、令和8年度は、室蘭市・登別市・伊達市の高校8校に対して指定校推薦枠を10名程度設け対応していく。また、事務課職員がキャリアコンサルタントの国家資格とキャリアコンサルタントアドバイザーの資格を取得したため、資格を活用し社会人へのアプローチもさらに強化していく。
2	選抜の公平性	VI-2 入試委員会を組織し、守秘義務を徹底し不正等が起こらないように周知徹底している	4.4	
3	選抜方法の妥当性	VI-3 入学者状況・入学者の推移について分析し、入学者選抜方法の適切性を検討している	3.9	
4	学生募集活動への取り組み	VI-4 受験生の動向や背景を分析した結果を活かし、積極的に募集活動を行っている	4.2	
			4.2	

VII 卒業・就業・進学

下位項目		(評 価 内 容)		評定	自己評価
1	進路選択の状況と教育理念・目的との整合性	VII-1	卒業生の到達状況、就業・進学状況を分析した結果は教育理念・教育目的との整合性がある	3.8	評価得点が昨年度3.7から3.6と下がった。卒業生の5割強が日鋼記念病院へ就職している。コロナ禍を契機に卒業生の来校が減少し卒業生の活動状況など口頭での情報は得られにくくなったが、昨年度より少しづつ来校者も増えてきた。令和8年3月に同窓会を開催し、今後同窓生の交流など同窓会活動をより活発化させることや実現に中々至らないが母校への里帰りなどの企画をし、卒業後の状況についての情報を得ていく。卒業後の在籍時の学校生活の調査は専門実践教育認定校としての要件において調査を実施している。就職先の病院や進学先の学校と連携し、実態調査を計画していく。
		VII-2	卒業生の到達状況を捉える方法を明確にし、それを計画的に行っている	3.4	
2	卒業時の看護実践能力及び卒業後の活動状況の評価	VII-3	教育を改善するために卒業生の就業先との情報交換や調査等ができる体制を整えている	3.8	
		VII-4	卒業生の活動状況を把握し、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している	3.6	
				3.6	

VIII 地域社会・国際交

下位項目		(評 価 内 容)		評定	自己評価
1	地域社会と交流するための体制 1) 地域社会への貢献とニーズの把握 2) 地域社会における資源の活用	VⅢ-1	社会との連携に向けて地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	4.1	評価得点が昨年度3.8から3.6とやや下がった。項目Ⅷ-3「地域社会における資源の活用: 地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本学校の学習・教育活動に取り入れている」の評価得点が4.1と昨年度の4.4より下がり、「子ども食堂」や地域の保健活動として乳幼児健診をはじめ、育児に関する室蘭市の育児相談クラブやマタニティ教室、R7年度から登別市の育児相談会などの活動の場に参加し、地域・在宅看護実習Ⅰや小児看護学実習、母性看護学実習の授業として取り入れている。このように学習の場を拡大させて取り組んでいるが学内での情報共有が不十分であったのか得点が下がった。各領域の実習での工夫等互いに理解しあえるよう検討していく。また、国際交流の体制整備の課題については、授業科目への設定や学習環境への整備に対しての得点が低くなっている。科目や学習環境については条件が変わっておらず、より良くしていくための課題点として捉えていると推察する。また、海外での活動経験ある卒業生の状況を教職員・学生へも情報提供していく。
		VⅢ-2	本学校の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、本学校から地域社会へ情報を発信する手段を持っている	4.1	
		VⅢ-3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本学校の学習・教育活動に取り入れている	4.1	
2	国際交流のための体制 1) 学生・教員の国際的視野を広げるためのシステム 2) 留学生の受け入れ等に関する対応	VⅢ-4	国際的な視野を広げるための授業科目を設定している	3.7	
		VⅢ-5	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っている	2.8	
		VⅢ-6	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制がある	2.9	
				3.6	

IX 研究

	下位項目	(評 価 内 容)		評定	自己評価
1	教員の研究的姿勢の涵養	IX-1	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地がある	3.3	評価得点が昨年度の2.9から3.1へ上がっている。3つの項目すべて得点上がり、低値であるIX-2「教育の研究活動の保障と評価:教員の研究活動を保証(時間的・財政的・環境的)している」も2.7から2.8へと得点上がった。研究への関心はあるものの日常業務に追われ取り組めていない状況ではあるが、雑誌や研究論文を読んだりと個々での努力は継続されている。令和6年度大学院(修士課程)へ進学し勤務を継続し令和7年度2年間で修了した教員がおり、教職員間においても協力し支援したため、より具体的な支援内容や研究に関する学びの情報を共有できた面もある。今後、研修や学術集会の計画的受講や希望者には進学支援も進めていきたい。
2	教育の研究活動の保障と評価 1) 研究活動の保障 2) 研究活動の評価	IX-2	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している	2.8	
		IX-3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っている	3.2	
				3.1	